

人をおしのけて いる？

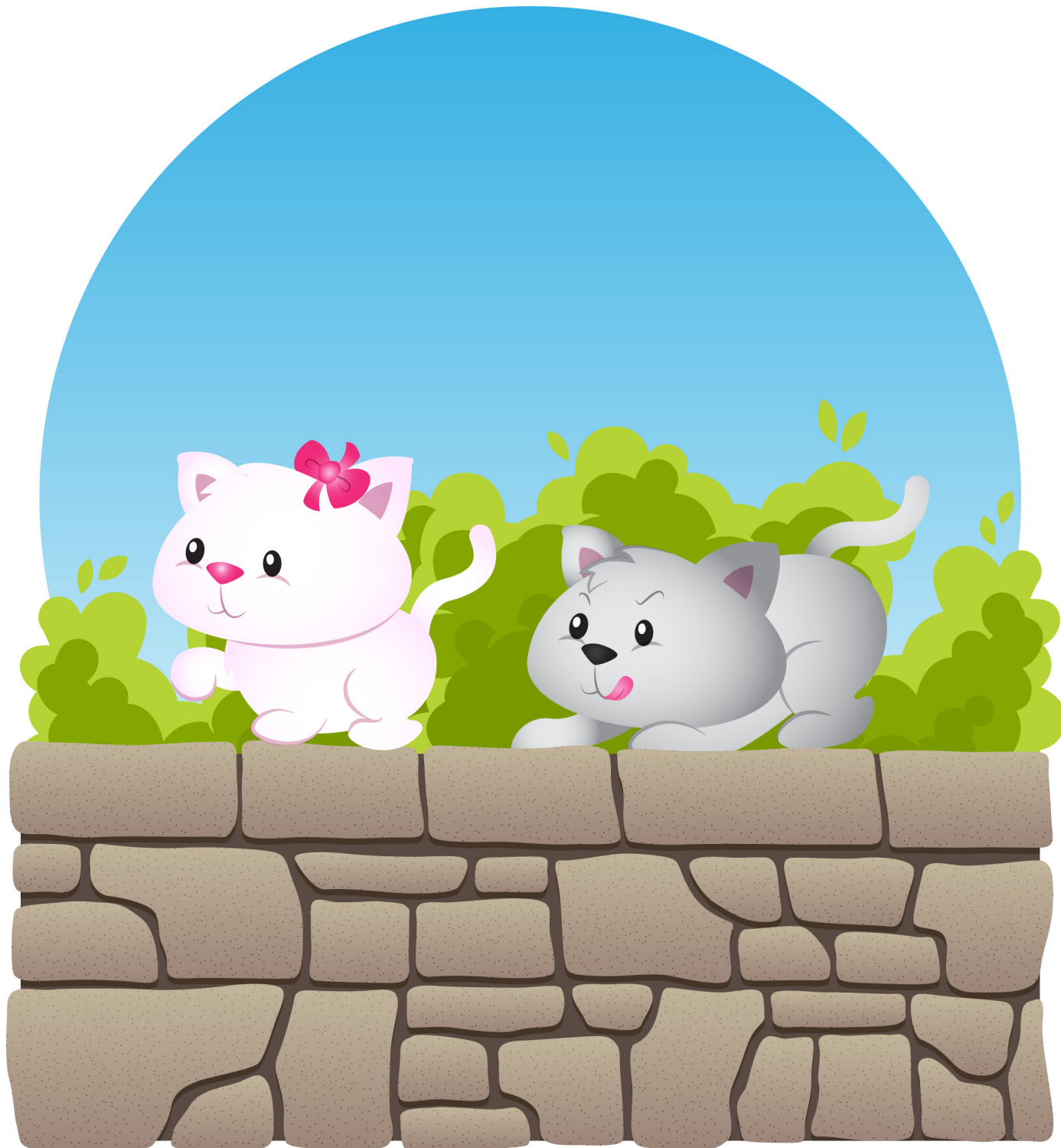
「おさないでよお！」 ベベが
お兄ちゃんにいの ヒューゴいに 言い
ました。

「おして ないよ。おまえが
おそすぎるだけさ。」と、ヒューゴ。

ヒューゴと ベベは、2ひきの
こ子ネコ。2ひきは、飼かい主ぬしさんの
いえ家かこを 囲かこむ へいうえの上あるを 歩くあるのが
だい大好きです。

「おそいんじゃ ないわ！
き氣きを つけてるだけよ。」 そう
い言うと、ベベは 片かたあし足を とうとう
いっ ぽ てまえ さ だ
一歩 手前に 差し出しました。

ヒューゴは、あ～あ、と
おおげさに ためいきを
つきました。自分じぶんが 先さきなら、
ま待たなくて すむのに。ベベを
飛びこえて 行いったら いいかな。
そうだ！ そうしよう。



ヒューゴは ピョン!と 飛び
はねました。でも、ベベの 上に
落ちてしまいました。2ひきは
いっしょに へいから まっさかさま。
地面に 落ちてしまいました!
きのう 雨が ふったばかり
だったので、地面は やわらかくて
ぬかるんでいます。

「おしたわね!」と、ベベ。
ベベの 白い 毛は、どろだらけです。

「そんな つもりじゃ なかった
んだけど・・・」と、ヒューゴ。妹を
地面に 落っこちさせてしまって
すまなく 思いました。「ケガして
ない?」 ヒューゴは 心配そうに
聞きました。

ベベは 泣きやんで 考えました。
(わたしって、ケガを したの
かしら?) 前足と 後ろ足を
見てみました。「ううん。ケガは
ないわ。びっくりしちゃった
だけ。」 そう 言うと、ベベは
クスクスと 笑いしました。「それに
しても、どろんこだらけに
なっちゃったわ。」



「洗^{あら}うのを 手^て伝^{つだ}うよ。おす
つもりは なかったんだ。
ごめんね。」 ヒューゴは、ベベと
けんか^なかに なるのは いやでした。
仲^{なか}良くしている ほう^よが、いつも
ずっと 楽^{たの}しいのです。

「いいのよ、ヒューゴ。次^{つぎ}は、
あ^さなたが 先^{さき}ね。」と、ベベ。

後^{うし}ろから おされたりすると、
あ^{かん}なたは どう 感^{かん}じますか？
き^{ひと}っと、いやでしょうね。人^{ひと}を
お^{ひと}しのけたり するの^{ひと}は ふ^{ひと}つう、
気^きが 短^{みじか}く なっている 時^{とき}です。
そ^おんな こと^おが 起^おこるの^{まわ}は、周^{まわ}りの
人^{ひと}より^{ひと}も、自^じ分^{ぶん}の こと^{ひと}や、自^じ分^{ぶん}が
し^あたい こと^あで 頭^{あたま}が い^あっぱいの
時^{とき}です。周^{まわ}りの 人^{ひと}が どう 思^{おも}ったり
感^{かん}じたり して^{かんが}いるのかを も^{ひと}う
ち^{ひと}ょっと 考^{かんが}えてみるなら、人^{ひと}に
対^{たい}して や^{たす}さしく なる 助^{たす}けに
なるで^{たの}しょう。そ^すのほう^すが、ず^すっと
楽^{たの}しく 過^すごせ^すますよ。

